

○ 本校の概要

- 児童数:388、学級数:13、教員数:19(5月1日現在)
 - 平成23年度より「おおたサイエンススクール」指定校(おおた教育振興プラン 大田区教育委員会 理科教育研究推進校)
 - 平成25年度より 文部科学省教育課程特別校「サイエンス・コミュニケーション科新設」
 - 令和4年度は、11月5日「開校90周年記念式典」を予定。
- 「取組内容」の網掛けは、学校独自の内容です。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にふさわしい対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	4	児童アンケートで「学校の学びを通して、自分の力が上がり成長した。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	A	8	・朝会のサイエンス朝会をはじめ、先生方の工夫が子どもたちの興味を引き出している様に思います。 ・ICTを活用することも大切ですが、各々の考えを自由に言える環境であってほしい。 ・6年生の学校公開で行われたスクールタウンミーティングのような異世代とのコミュニケーションをすることによって、対応力が高まっていくと思います。 ・サイエンススクールとしての取り組みは毎年工夫されていて子どもたちは貴重な体験をしています。先生方は準備など大変なことだと思います。ありがとうございます。 ・コミュニケーション能力はリテラシーと想像力を養うことがと思います。 ・ICT機器は活用することが大切だと思いますが、こだわりすぎると良くない気がします。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2:60%以上					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満					
		理科・サイエンスコミュニケーション科を重点として、対話を通して、主体的に問題解決する力を育む授業を行い、科学教育を推進する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上が肯定的な回答をした。 2:70%以上が肯定的な回答をした。 1:肯定的な回答が70%未満であった。	4	4					
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。	4	4:95%以上	児童アンケートで「学習が楽しい」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4	A	7	・タブレット、電子黒板等の機器を上手に活用されているように思います。教室に入れない児童が増えているように思います。手が足りない面もあるかと思いますが、上手フォローが出来たらと思います。 ・6年生になると学力の二極化が進むと思うので、補習等の継続をしてほしい。 ・ICT機器を自在に操作する子どもたちの前向きな姿は素晴らしいと思う。 ・いわゆる定言命令法等。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:80%以上					
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:70%以上					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:70%以下					
		ICTを効果的に活用した授業を展開する。	4:実施している。 3:だいたい実施している。 2:あまり実施していない。 1:実施していない。	4	4					
		ICTを効果的に活用した授業を展開する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:95%以上					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望な心を育むことを目指します。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:95%以上	児童アンケートで「友達と遊んだり、勉強したりするの楽しい」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4	A	8	・休み時間、放課後に元気よく遊んでいる姿を見るとほっとします。1人でも多くの児童が前向きに学校生活を送れるといいと思います。 ・いじめアンケートを月一回実施することで、小さい芽をつめることがわかりました。 ・制約だらけだったコロナ禍から変化したことにより、児童たちが楽しく学校生活を送れているように感じました。 ・大人にも自分の意見を言える子が多くなり感じました。 ・ジョン・ロールズの考案ですね。それには理性的発達が必要かと。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:80%以上					
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:70%以上					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:70%以下					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおよそ会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4					
		「たてわり班」活動を活用した取り組みを計画的に行い、異学年交流の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4					
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	児童アンケートで「休み時間以外で遊ぶなどの運動をしたり、早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気を付けて生活している。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4	A	7	・暑や習い事で毎日疲れている子どもも多いと思いますが、元気に学校生活を送ってくれたらと思います。 ・家庭内全食が毎日遅くまでそれぞれがすすむことがあり、食事が減ってきているのが、ちょっとの励まし言葉の積み重ねが思いやりの心が育まれていくと思います。 ・「元氣いっぱい〇年生」は昔から健康な生活を育む取り組みで継続してほしい。 ・ゲームばかりの子に体力を、運動する機会、場所が授業だけでなく増えるよといと思います。校庭が人工芝になれば子どもはもっと遊ぶと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2:70%以上					
		健康で活力ある生活を創り出す力を育てるため、「元氣いっぱい〇年生」の取り組みを実施する。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:70%以下					
		「たてわり班」活動を活用した取り組みを計画的に行い、異学年交流の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4					
		「たてわり班」活動を活用した取り組みを計画的に行い、異学年交流の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:85%以上	保護者による公開授業アンケートにおいて肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4	A	7	・保護者のアンケートで、「子供たちにとって分かりやすい授業をしている。」という項目での肯定的な評価は、100%であり、令和元年度より9%向上している。 ・保護者アンケートの自由記述では、「先生方が工夫して授業をされていると感じた。」「苦学な教科も、先生の授業が面白く、楽しく取り組んでいました。」「1人ひとりのディスカッションでは、のびのびと楽しそうに意見交換をしていた。」「SC科の授業では、手羽先の解剖は、子どもたちの理解に繋がっていたと思う。等、肯定的なコメントを多くいただいた。 今後は、授業方向を向上を目的として、授業研究を、毎週水曜日に設定し、講師を招いた研究授業等により授業方向向上を図る。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:70%以上					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:60%以上					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:60%以下					
		サイエンススクールとして、の環境整備を行うとともに、理科・サイエンスコミュニケーション科の授業方向向上を図るための研究授業を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4					
		サイエンススクールとして、の環境整備を行うとともに、理科・サイエンスコミュニケーション科の授業方向向上を図るための研究授業を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:90%以上	保護者アンケートで「学校は、地域、外部の力や学習の専門家」を子供たちの教育活動に活かしている。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4	A	8	・清水窪らしい、学校・家庭・地域の関係を今後も継続出来たらと思います。 ・コロナ禍で活動が制限される中「清水窪応援隊」が企画するわくわくスクールは工夫を凝らして様々な活動がなされていくと思います。 ・文化資本の問題ですね。(ピエール・ブルデュエ)
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発達の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:80%以上					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2:70%以上					
		学校行事・授業における児童の学びの様子の理解を図り、家庭・地域と連携して児童を育てるため、平日及び土曜日の授業を公開する。	4:平日及び土曜日の公開を5回以上実施した。 3:3~4回実施した。 2:1~2回実施した。 1:1回未満の実施であった。	3	1:70%以下					
		研究室訪問、国際理解のための交流等、東京工業大学・地域と連携した教育活動を実施する。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4					
		研究室訪問、国際理解のための交流等、東京工業大学・地域と連携した教育活動を実施する。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。